

SMBC
Sustana

INTERVIEW

AWARD TOP ▶

『 Connect Internal賞 』 『 Connect External賞 』 『 Connect Solution賞 』



日本バーカライジング株式会社

代表者 里見 多一
設立 1928年7月12日
所在地 本社：〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1
従業員数 943名（2023年8月時点）
事業内容 化学工業製品製造業

日本バーカライジング株式会社は、金属を化学的溶融である開発、機械の運転である運営からなることを目的とした表面処理技術、表面改質技術を提供することを専門とするメーカーです。高度な技術と経験に基づき開発された技術（表面処理）、製品および技術は、国内外ともより中国・韓国・台湾・タイなど世界中の多くの地域において、工業用途から家庭用まで幅広く使用されています。そこには表面がある限り、人々の暮らしと社会を支え続けています。



CO2排出量削減はやはり事業継続のために不可欠

私たちには2021年に、2030年までCO2排出量を30%削減、2050年までカーボンニュートラルを実現するという目標を設定しました。その一番の理由は、当社の事業そのものの継続のためです。どうやら、私たちのお客さまであるメーカーは、自社のみならず、サプライチェーン全体のCO2排出量を削減していく必要に迫られています。そのため、ここ数年で排出量削減の取り組みに関するお問い合わせが多くお問い合わせ頂くようになきました。お寄せくださいましたときには、事業を継続していくためにも、私たちにとってCO2排出量削減は避けて通れない課題なのです。

当社はこれまででもっとも大きな目標である「2025年度まで1%毎年CO2削減」（2021年度比）に向けた取り組みが行われています。具体的な取り組みとしては、エネルギー効率の向上や機器のリサイクルなどを実施したり、機器やエネルギー効率の良い最新のものに交換したりなどです。

また、省エネ報告書のため、消費電力量や燃料量も毎月Excelに入力し、管理していました。

しかし、CO2排出量についても年度末に一括で算定していたため、毎月の排ガスのモニタリングは全くできていない状況でした。そのため、毎月の排ガス量を実際に測定するためには、まずはリアルタイムで時点ごとの排出量を把握する必要があります。そこで、CO2排出量可視化ツールの導入を検討し始めたのです。

その後は、国内関係会社、海外関係会社にもIDを付与し、グループ全体のCO2排出量を把握し、削減を進めていかなければいけません。

また、Sustanaの画面では、入力したデータに基づいて削減施策のコントロールが見れるようになっています。すぐに動画や新しいLED照明への交換から、EMS（エネルギーマネジメントシステム）や太陽光パネルの導入等、さまざまです。弊社は過去数年間のデータをも入力しているため、レポートもより精度になっているようです。こうしたこと参考にしながら、削減策を進めていきたいですね。



削減策のレコメンドも

今後は、国内関係会社、海外関係会社にもIDを付与し、グループ全体のCO2排出量を把握し、削減を進めていかなければいけません。

また、Sustanaの画面では、入力したデータに基づいて削減施策のコントロールが見れるようになっています。すぐに動画や新しいLED照明への交換から、EMS（エネルギーマネジメントシステム）や太陽光パネルの導入等、さまざまです。弊社は過去数年間のデータをも入力しているため、レポートもより精度になっているようです。こうしたこと参考にしながら、削減策を進めていきたいですね。



Sustanaの魅力はID数の多さ

導入に際しては、いくつかのツールを比較検討しました。Sustanaを選んだ決め手となるのが、ID数の多さです。弊社は製造拠点ごとに複数会社で合計せると40万点以上、関連会社を含めると90万点以上になります。これですべてにIDを付与するとなると、他社のツールでは料金が嵩む一方、Sustanaであれば基本料金ですべてバーできる点が魅力的でした。

また、フォーマットを社内に合わせて変更で利用できるのも大きな魅力の一つです。具体的には、CO2排出量に加え、PRTR制度の対象物質（排ガス・移動源）を複数、省庁で報告する義務がある（省令）や水系の分析結果等、さまざまなデータを一括で管理しています。こじらかで万能といえども、三井住友銀行の担当の方がレクチャーしてくださいました。

導入後は、全拠点IDを付与し、それぞれが既存Excelで管理していたデータと連携の便り性のデータを、Sustanaに 맞てもらおうとうしました。こうして、全拠点の排出量をシステムナビゲーター機能を通してリアルタイムで把握できるようになりました。

すると、工場により電力・燃料使用量の特色があることが明らかになりました。その理由を探っていくと、「この工場ならこういった特徴で削減できるんだ」といった具体的な道筋が見ええてくるように。やはり、見える化が具体策を見つけるためのキーワードなのかもしれません。

また、ごつごつ見える化されたCO2排出量データをそのまま電子掲示板で表示することを始めました。少しづつ、社員一人ひとりに当社が属する会社でできていることを実感しています。もうひとつ導入して得られたメリットとして、蓄積効率の改善があります。Excelでの整理時と比較して入力スピードが速く分かれようにならなければ、集計コストも下がりました。また、部署間共有する機能なども大きくなりました。情報共有が効率的でできるようになった点も大きいです。



サプライチェーン全体で協力していくために

弊社は、自動車や自動車のボディ、電化製品や自動車の構成部品等、さまざまな製品の表面を処理することで、両輪や摩托車を守り、滑りやすくなる（滑りにくくなる）といった機能を持たせることを主な業務としています。表面の寿命を延ばしたり、エネルギー効率を上げたりするといった機能を提供しているため、車両の荷物が荷物に負担していると言えます。

しかし、それだけではCO2排出量削減の取組が十分であるとは言えないことを、この責任で感じています。既存車両は自社だけではなく、当社製品やサービスによるお客様の整備工場でのCO2排出量削減への貢献や導入へ貢献等サプライチェーン全体で取り組んでいかなければ実現できません。そういった意味では、例にならなくてはいけない企業がCO2排出量削減に取り組まなければならない時代に、間に突入していると言えるでしょう。

当初は何かから始めよいか分からなかった私たちも、CO2排出量の見える化をすることで、スタートラインに立ち、サプライチェーンをイメージできるようになります。同じような問題意識を抱えていらっしゃる企業の皆さんも、ぜひお読みの方から始めてしまおう。各社の取組で日本の脱炭素の動きをより活潑にしていただけたらと思います。

審査員コメント



磯和 啓雄

三井住友フィナンシャルグループ
執行役員 グループチーフ・デジタル・イノベーション・オフィサー

日本バークライジングさまは、Sustanaを導入することで、従前Excelに手入力して管理していたさまざまなデータを、一括管理することに成功しました。Sustanaには利用開始後も含めた過去数年分の燃費量データを入力いただいている。さらに登録ユーザー数も多く、現在は40ヶ所以上の製造・営業拠点や関連会社に活用いただいていることや、Sustanaで管理したデータを用いて第三者機関にも対応できる等、さまざまな場面でSustanaを社内のDXに積極的にご活用いただいていることから、今回「Connect Internal賞」に選定させていただきました。



山田 幸美

株式会社日本郵船研究所
リサーチ・コンサルティング部門 環境・エネルギー・資源戦略グループ マネジャー

日本バークライジングさまは、以前より省エネ対応としてExcelを使ってエネルギー使用量を把握、CO2排出量は年度終了後に別に算定されていました。Sustana導入により、エネルギー使用量の蓄積ミスの防止やデータの一元管理、CO2排出量を適宜モニタリングすることが可能となったほか、社内関係部署と情報の共有化が実現されています。これにより、CO2排出量の削減活動を機能的に推進する体制が整いました。今後は、国内外グループ会社データ連携を進める予定であり、「Connect Internal賞」にふさわしいお取組であると考え、選定させていただきました。



久木 龍哉

株式会社日本郵船総合コンサルティング

SX事業本部 未来戦略シニア・コンサルタント

化学品製造におけるCO2排出量算定の課題として、原材料の燃焼性や反応プロセス、処理工程の多様性による正確なデータ収集の難しさが挙げられます。そのような環境の中で、日本バークライジングさまの取組は、登録活動データ総数の多さからも分かるように、社内関係部署を巻き込んだ企画的な活動になっており、データの一元管理、部署間の情報共有の容易化向上等Sustanaの機能を上手に活用しております。

今後想される課題としては、調達先や製造工場の変動、そして技術面にともなう原材料構成の変動等、変化に対応する方法の確立が挙げられます。そのような面においても、Sustanaの機能を更に活用いただき、継続的な活用を期待しています。



© Sustana
Copyright © Sumitomo Mitsui Banking Corporation All Rights Reserved.